



### 戦略を立てる (知る) ～3年生～

令和5年1月14日(土)・15日(日)に実施される大学入学共通テストまで残り約6週です。今は「栄光への途中」です。一步一步着実に歩みを進めていきましょう。

共通テストでは、「時間内に」「正確に」ということが求められます。日頃から「速度」と「精度」を意識しましょう。3年生は今後、模擬試験やパックテストを5回受験します。その際、自分がどのように間違えたのかを確実に分析しましょう。国語では、複数の題材それぞれの共通点・相違点をおさえながら文章を読み、核をとらえていく力が必要です。数学では、初見の問題に対して概念や定義を素早く理解する練習が必要です。英語(L)では、話し手が話す速度で瞬時に内容を理解できるよう、聴解力を鍛え続けることが大切です。振り返り学習の中での自己分析を次の演習で生かすことを心掛けましょう。

自分の希望する大学の特徴も確認しておきましょう。例えば広島大学総合科学部文科系では、前期日程で小論文が課せられます。和歌山大学や長崎大学の特定の学部前期日程では、総合問題が課せられます。福岡教育大学の初等教育においては、合否判定における共通テストの割合が88%と際立って高くなっています。逆に、九州大学法学部では、個別学力試験の割合が67%に達しています。今後、複数の大学を検討する際には、こうした情報も集めるようにしましょう。

入試動向にも目を向けましょう。旺文社教育情報センターの情報によると、「チャレンジ指向の高まり」「理・工・農の国公立大の人気」が指摘されています。全体的に「文低理高」とされている中、「法律系」「経済系」は影響が少ないという予想もあるようです。自分の希望する大学・学部・学科の動向を調べてみましょう。

全体的な傾向以外にも、「反動」という動きもあります。これは、前年度に高かった倍率が、今年度は下がる(逆もあります)動きのことです。以下に例を示します。

九州大学 (教育・前期)	2.3 → 3.1 → 2.2
熊本大学 (理学・前期)	1.8 → 2.1 → 1.4
鹿児島大学 (多元・前期)	2.3 → 2.0 → 2.4

【2020年度入試 → 2021年度入試 → 2022年度入試】

もちろん「今年は上がる(下がる)」は確定ではありません。しかし、入試に関するさまざまな情報を活用することは大切です。ストレスやモチベーションのコントロールにもつながるからです。受験に対してポジティブになれる材料をフル活用しましょう。

### 受験に向かって行動しよう ～1・2年生～

3年次に取り組む大学入試演習が受験勉強と思われがちですが、毎日の授業や予習復習、週末課題が、実は受験勉強になっています。共通テストで必要とされる学力は、多くが2年生までに「授業」で学ぶ内容だからです。日々の取り組みが受験につながるという意識を持ち、日頃の学習を受験勉強に近づけていきましょう。

また、受験に向けて今できることとして、今年度中に以下の①～③を実行してみましょう。

#### ①目指す進路を具体的に調べる

難易度だけでなく、その大学で何が学べる(体験・スキルアップできる)のか、まずは「知る」ことが大事。

#### ②目標達成のためのスケジュールを組む

試験結果を分析して自分の得手不得手を理解し、「必要な学力をつけるために勉強する」という意識を持つ。

#### ③授業で勝負、そのための予習復習を徹底する

予習・授業・復習を徹底して、「その時」に理解することを心掛け、時間をおいた復習で定着させる。

### 共通テスト情報 ～R7入試～

以下は11月9日に大学入試センターから発表(更新)された内容です。大きな変更があった教科について、概要を示します。

国語	90分に延長+大問が5つに増加 近代以降の文章110点・古典90点
地歴公	『地総・歴総・公共』『地総・地探』 『歴総・日探』『歴総・世探』 『公共・倫理』『公共・政経』から選択
数学	①『数I』または『数I・A』70分 ②『数II・B・C』70分
理科	『理科』として1つの時間帯で実施。 1科目選択60分・2科目選択130分 (※2科目選択の解答時間は120分)

国語は時間も問題量も増加します。地歴公民は試作問題等を参照し、対策を練る必要があります。数学②は内容が変わるため、文系も「数学C」が必要になり、時間も長くなっています。英語については、大きな変更点はありません。情報については、試作問題を参照し、対応を考えていきます。

共通テストまであと45日。頑張り3年生!

## 話題のニュース3つ!

(1年5組 担任 飯屋まどか)

友達や両親に、『話題のニュース』を3つ挙げなさい」と試してみてください。3つ挙げるのに何分かかるでしょうか?すぐに3つ挙げて、友達は簡単に説明できるでしょうか?

実はコレ、「記憶力や物忘れチェック」の1項目です。スマホによる脳過労の危険度を測るためのものです。テレビを見ながらスマホを触る、スマホの中でも複数のアプリを立ち上げる、同時に並行して色々なことを見たり聞いたり、物を描いたり…現代人は脳にストレスがだんだん溜まっていつているそうです。

脳の情報処理には、3つの段階があるそうです。①情報を入れるインプット、②整理、③話すなどのアウトプット。しかし、ぼんやりすべき時にスマホを使いすぎると、この情報の整理が行われないため、脳がまるでゴミ屋敷になっているそうです。(クリアファイルに何十枚とプリントが溜まっている人を見たことないですか!?まさにあんな感じです!!)整理する時間が昔はあったのに、スマホのせいでぼんやりする時間が減ったり、睡眠時間が減ったりして体に害が生じます。



更に恐ろしいのが、「脳内麻薬」と呼ばれる脳内物質ドーパミンです。これは、興味や好奇心など、自分が「何に注目するか」を決めるホルモンで、ゲーム・SNS・LINEなど「見たい!」と思う時に、脳内に一挙に放出されます。ドーパミンが放出され脳が快感を得ると、脳がそれを学習し、またその行動をとり快感を得ようとします。このように、ドーパミンは脳にとってこの上ない快樂をもたらしてくれるものとなり、更に大きな快樂を得ようと努力します。そして、この人間の弱さをうまくビジネスにしているのがSNSです。いいねボタンや、ストーリー、YouTubeなど、企業は最新のAIを用い私たちが何に注目し、どんなところに興味を持つのかを常に解析しています。こうやって、私たちは気づかぬうちにクリックをし、ドーパミンは放出され続け、いつまでも見続けてしまうのです。

大事なことは、「悪いことだと分かっているのに、自分でやめたり制限したりできない」という状況だそうです。週末課題がまだ終わっていないと分かっているのにスマホを見ていたり、お風呂に入る時間なのにYouTubeをもう1個見ようとしていたり…そんなことはありませんか?

では、一体どうしたら良いのでしょうか?今日は、皆さんが日常でできる小さなことを紹介します。

- ① 自分の中でルールを決める!携帯チェックする時間を固定化する。YouTube などを見られる時間を決める。自分で決めることが大事です。このようにして、少しずつスマホから離れ、四六時中スマホを見るという癖をなくしましょう。
- ② 寝る30分前には携帯は触らない。(そのためには、「寝落ち」するのではなく、就寝時刻を固定!)
- ③ 人という時はポケットやバッグにしまう。目の前にいる家族や友達との時間を大切にしましょう。

11月7日~13日の間は宅習時間調査の期間でした。1年生の学年全体の平均宅習時間は、平日2時間10分ですが、前年比-4分、一昨年比-24分です。土曜日は平均3時間35分ですが、前年比-23分、一昨年比+15分、日曜日は平均3時間54分ですが、前年比±0分、一昨年比-1時間26分です。平均睡眠時間は、平日6時間29分、土日7時間11分ですが、毎年宅習時間は減る一方です。

1年生は、全体的に春の時点でも学習時間が少なく、家で勉強をしたり予習をしたりする習慣がない生徒が多いように思われます。2年生になる前までには平日は2時間以上勉強できる忍耐力と習慣を身につけていて欲しいものです。残り約4ヶ月です。みなさんも、ぜひ時間の使い方を見直し、みなさんの脳がスマホに侵略されることのないように、自分と向き合ってみてください。そのためにも、C-PASSを毎日正確に自分のためにつけてみるのもいいと思います。

### スマホ依存度チェック

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> スマホを見ているうちに無意識に時間が経っている            | <input type="checkbox"/> スマホなしでは1日過ごせないと思う   |
| <input type="checkbox"/> 人と話すことよりもテキスト、SNS、メールをするこ<br>との方が多 | <input type="checkbox"/> スマホがないと落ち着かないと思う    |
| <input type="checkbox"/> 特に用がなくてもスマホをチェックしていることが<br>ある      | <input type="checkbox"/> 少し時間が空くとスマホを開いている   |
| <input type="checkbox"/> お風呂に入る時にスマホを風呂場に持ち込む               | <input type="checkbox"/> 購入時よりスマホの使用時間が増えている |
| <input type="checkbox"/> スマホ画面を見ながら人と会話することがある              |  |
| <input type="checkbox"/> 運転や勉強など集中力が必要な作業の間もスマホを<br>触ることがある |  |

0~2 : 依存していない  
3~5 : やや依存している  
6~8 : 依存している  
9以上 : かなり依存している

Job 総研より

$$R = 1,137$$

2年3組 担任 尾辻 毅

円はこの世で最も美しい図形の一つである。どの角度から見ても対称性を持ち、全ての円は相似形で、誰もが同じ形をイメージできる。原子軌道や土星の輪など、円形で表されるものは数知れず存在するが、描くとなると僅かなずれを許さない。究極の美を持つ図形である。

さて、少し数学的に話を進めたい。

人が生まれた場所を A、自分の足で訪れた場所を P とし、2点 AP を結ぶ最短距離を感覚距離 R とする。生まれたばかりのときは  $R=0\text{ m}$ 、ハイハイができるようになると数 m に広がる。小学生ぐらいだと 2~3 km、あるいは 10km 以上の子もいるだろう。

そこで私は次のように予想する。

Jiemann 予想：人は半径 R の内側の世界に落ち着きを感じ、R を超えるまだ訪れたことのない世界に不安を感じる生き物である。

このような考えの基礎になった高校2年生に関するエピソードを二つ紹介したい。

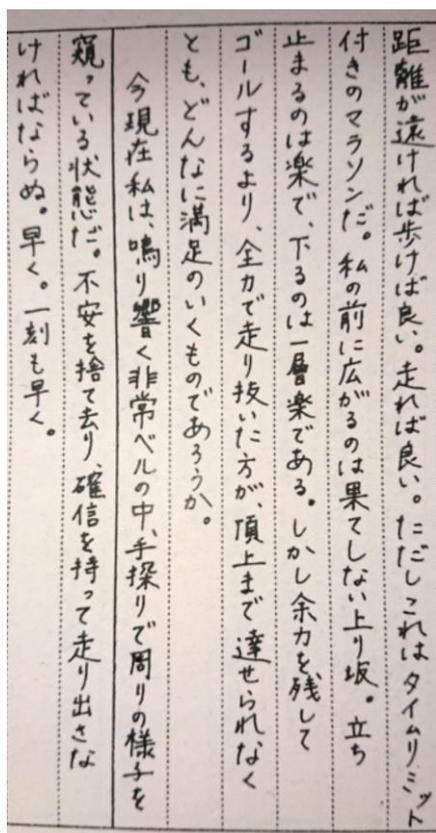
泣き虫先生と共に高校の弱小ラグビー部が全国優勝まで駆け上がったテレビドラマの最終回が放送された37年前の昭和60年4月、私の鹿中央2年生としての1年が始まった。私は理系で、担任のE先生には英語を、またA先生には数学を教わった。今でも連絡を取っている私の恩師のお二人である。

私は、2年生の2学期に、12/29~31までの3日間で山口県を一人旅する決心をした。親と担任のE先生から許可を頂き、すぐに旅行届と学割の申請書を学校に提出した。実は、これまで一度も訪れたことの無かった本州の地に、自分の最初の一步を記してみたいという気持ちに駆られた末の行動だった。ルート選定、乗車切符の購入、宿泊所の手配など、全て自分の手で行い、深夜22:30西鹿児島駅（現在の鹿児島中央駅）を始発とする急行かいもんに乗り、翌朝7:03門司に到着。そこから昭和33年に開通した長さ780mの関門トンネル人道を歩いて渡り、エレベーターで外に出ると、右足を踏み出したそこは本州山口県の下関市だった。これまでの自分を越えた瞬間であり、私のRは264kmとなった。人生初の新幹線も経験できた。

数学のA先生。いつも落ち着いて丁寧に指導される先生で、私は数学が大好きだった。そのA先生は、私が鹿大に入学した年に、鹿大理学部数学科に移られた。さらに、私が3年間所属した微分幾何学のゼミにA先生もいらした。私が大学院2年の時、A先生が「学会に行くけど一緒に行く？」とおっしゃったことがきっかけで、私は、8月中旬からの2週間A先生と東欧に行くことになった。アエロフロートというロシアの航空会社の飛行機に乗り、初めて降りた海外の地はモスクワだった。待ち時間の合間、赤の広場を訪れることもできた。翌日ハンガリーのブダペストに移動し、ショプロンという都市に1週間滞在した。ハンガリーの民族であるマジダル人は、言葉がマジダル語で、文法的にとても日本語に近い。生まれたばかりの赤ちゃんに蒙古斑があるなど、何かと日本との共通点が多く、日本人に対して友好的な民族だった。さて、そこからバルトオリエントエクスプレスに乗ってルーマニアのブカレストに移動した。ルーマニア人は古代ローマ帝国人の末裔である。学会はこのブカレストで行われ、A先生も発表された。「尾辻君も何か発表するか？」とおっしゃった。海外で急に言われても…って感じである。この時点で  $R=9,000\text{ km}$ 。それが私の感覚距離である。

今回の国内体験学習で、私たちは福島を訪れる予定である。鹿児島市から福島市への直線距離は1,137km。同心円内にはすでにソウルや上海が含まれている。

池に放った石が描く波が大きく広がるように、人間の空間に対する感覚も成長と共に同心円状に広がっていく。一度広がった円は決して小さくなることはない。君たちの感覚距離は来月には  $R=1,137\text{ km}$ 。この中にこれまで候補として含まれなかった進路先は無数に存在する。感覚距離が広がった自分をもう一度見つめ直して、進路決定につなげてほしい。頑張れ59期生。



ある高校生の手記の一部である。記録の正確な日付は分からない。ただ、これは当時クラスで行っていた回覧板の中に書かれたものであり、次の生徒が「センター試験（注：共通テストの前身）まであと36日」と記録していることから、受験間近の12月初頭かと思われる。

当時このクラスでは、公の学級日誌とは別に、名簿順で一人A4一枚、普段何気なく思っていることを書く、クラス全員での交換日記を行っていた。冊子のタイトルは「もの思う葦」。

「人間は考える葦である」というパスカルからの引用だ。書いた者は、担任のコメントを経由し、次の者へ。見返してみると、最初は部活動の話などが中心だった内容から、友人への感謝、恋愛相談、将来への不安や希望、果ては自作の詩まで披露する場になっていた。

この生徒の文章に対しての担任コメントは、

「登っている時は見えないものが、登り切った時に見えてきます。それを皆に見てもらいたいです。全力を出し切ったどりついた頂上だけで見える景色です。」とある。

この生徒は、当時やっと受験というものを真剣に意識し始め、そして途方に暮れていた。勉強はしていた。休み時間は友人三人と日本史の一問一答。教科書下段から重箱の隅をつつく出題をし、笑い合いながらも学習しているつもりだった。しかしその和やかな時間は、いつしか教室から廊下のベンチへと場を移していた。ペン一本借りるのにも小声で周囲の様子を伺わねばならぬ、そんな教室の空気に耐えられなかった三人だったらしい。呑気なこの生徒は、実はそんな理由で移動したとは気づかず、ただ友人に付き合い、何となく勉強して過ごす休み時間に満足していた。

ところがある日、その内の一人が「抜きたい」と言った。「ありがとう、もう一人でできそうだ。」友人が入っていった教室を振り返ると、そこには黙々と努力する他のクラスメイトの姿があった。「もの思う葦」では相変わらず、ふざけたことも言っていた仲間が、急に他人に見えた。毎日目に入っていた筈の光景である。見えない振りをしていたのは現実から逃げていた弱い自分であったか。

教室へ入ってみた。数学、物理、地理、英単語……それぞれの机でそれぞれが燃えている。二年生の夏目漱石「ころ」の単元で聞いた「個人主義」という言葉が思い出された。「利己主義」ではなく「個人主義」。「個人主義」も同一日が決戦の舞台となると、「運命共同体」となるらしい。そんなことを思い、徐々に湧いてくる焦りの中受け取った「もの思う葦」であったことを、3年生を担当して迎えたこの時期に、久しぶりに思い出した。

「牛になることはどうしても必要です。われわれはとかく馬になりたがるが、牛にはなかなか切れないです。」「あせっては不可ません。頭を悪くしては不可ません。根気づくでお出でなさい。世の中は根気を前に頭を下げる事を知っていますが、火花の前には一瞬の記憶しか与えてくれません。うんうん死ぬまで押すのです。それだけです。」

漱石が門下生である芥川龍之介、久米正雄に送った手紙の一節。あの高校生が焦りの中思い出した漱石の文章に励まされ、クラスメイトの熱波に押され今日あることを最後に記し、58期生へのエールとしたい。